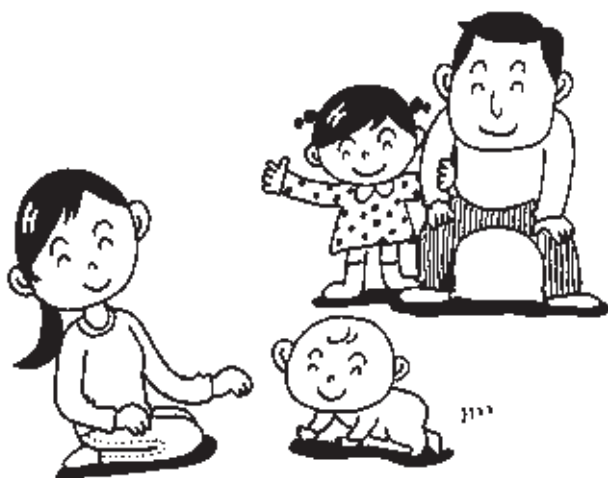


なぜ？なぜ？先生

～みんなの不思議～



「南無不可思議光」って
なあに？

「南無」はインドの昔の言葉、「帰命」は中国の昔の言葉です。仏教はお釈迦さまがインドで説かれ、中国を経て日本に伝来しました。

「南無」はインドの言葉の音に漢字を当てはめた表音文字ですので、インドの言葉のままです。ですので、「南」や「無」の漢字に意味はありません。その言葉を中国語に意識したのが「帰命」という言葉です。ですから、「南無」と「帰命」は同じです。「ナマステ」と「ニーハオ」がどちらも同じ「こんにちは」という言葉であるのと同じ関係です。

「南無」「帰命」を、日本語では「皈依」と訳します。「心から信じうやまう」という意味です。しかし、親鸞聖人は、ご自身の「信心」を、自分でつくった「信じるころ」ではなく「阿弥陀さまからいただいた信（まこと）のころ」であるのだから、「本願に帰せよとの阿弥陀如来の勅命（我に任せよ、必ず救うぞ）の意」とし、また「その勅命に帰順する（仰せのとおり、お任せします）の意」としています。

いま、待機児童問題の陰で過干渉やネグレクト等、虐待問題が保育者の心を悩ませています。幼い命を愛おしい、護ってあげたいと思うところが芽生えていないまま親になってしまう要因の一つには、自身が幼いころ大切に育てられた経験が無いためとも言われています。

このことからわかるのは、乳児を無条件で愛おしい護りたいと思う心は、もともと私が生得的に持っているものではなく、親や周囲の大人からいただいた心だということです。いま、私が抱く乳児に対する愛情は、私の心情であると同時に、親の願いが確かにこの私に届いている証です。阿弥陀さまの「我に任せよ、必ず救うぞ」という願いが確かに届いた証として、「仰せのとおり、お任せします」と手が合わさるのです。

園児と一緒に「帰命無量寿如来 南無不可思議光」と手が合わさる生活を大切にいたしましょう。